

# つなガル!! ひろガル!!

## セネガル

No Adventure No Life

なぜ!? こんなところに半田先生...

令和元年 6月13日 Vol.3  
 青年海外協力隊 2019年度 1次隊  
 半田 麻実

そもそも、なぜ半田先生は青年海外協力隊としてセネガルに行こうと思ったのか…。みなさんに世界に興味をもってもらうきっかけになるかも!と思い、お話しします。キーワードは『つなぐ』です。

### 世界に興味をもち始めた大学生時代…

京都で過ごした大学生時代。なんとなく過ぎていく毎日がいやげがさしたのが大きなきっかけでした。『時間の使い方は自分次第。なんとなく過ごすのはもったいない、何か新たなことを探しに行きたい。』そう思った時には、もう飛行機のチケットをとっていました。

初めて行った場所はカンボジア。日本では感じられない『空気感』のトリコになりました。それから、20ヵ国ほど『開発途上国』を旅するようになりました。



カンボジア



ネパール

みなさんは『開発途上国』と聞くと、どんなイメージをもちますか? 「貧しい」「ものが無い」…最初このようなイメージをもっていた半田先生でも、実際に足を踏み入れてみると、どこか居心地の良さを感じたのです。道を歩けば飛び交うあいさつ、となりの家の人は家族同然、子どもはみんなで育てる…そんな人々との出会いに心をうばわれました。



インド



パプアニューギニア

### 真の『生きる力』

これまでずっと私の心にとめていたことがあります。それは、『お客さん感覚で行かない。その国の現実に目を向けること。』決してゆうがな旅行感覚にならないように、大きなリュックひとつかついで一人旅。今にもこわれそうなバスに乗ったり、外国人が行かないような村に行ったり、携帯に頼らず道行く人に話しかけまくって目的地を探したり…たくさん考え、学ぶことであふれていました。確かに、今も『開発途上国』には多くの課題があります。病気が多い、小さな子どもが働いている、学校へ行きたくても行けない…そんな現実を半田先生自身の目で見てきました。それと同時に、どんなに物が少なくても、どんなに環境が悪くても、そこで暮らす人々から、真の『生きる力』を感じたのです。「学校へ行きたい」「たくさんご飯が食べたい」「将来はパイロットになりたい」そんな夢をもつ子どもたちの力になろうと思いました。ものをあげることは簡単。でもそれには限りがあります。だから、その国の人たちが自分たちで生きていく力を身につけることが一番大切なのです。ものをあげるのではなく、生きていく力を育てるのが青年海外協力隊です。

半田先生には今でも『夢』があります。それは、『みなさんと世界をつなぐこと』です。私1人の力でできることは限られています。けれど、半田先生が見たこと・感じたことをみなさんに伝えていくことで、みなさんが世界に興味をもって、将来世界へ羽ばたいていく人が増えていけば、世界にとって大きな力となります。これからの時代・世界をつくるのは、みなさんです! 半田先生が、みなさんと世界をつなげます!